



2023年3月期第2四半期

決算説明会資料

2022年11月15日

株式会社アイ・ピー・エス

証券コード 4390

企業理念

OPEN DOOR

私たちは、いまだ誰も突破できていない障壁のある生活に密着した分野で、誰よりも先んじて事業機会を創造し、事業を展開し、産業構造を変え、あるべき社会を実現してまいります。

当社グループでは、フィリピンにおいて、最先端の通信技術を活用した通信サービスを提供することにより、フィリピン経済の発展に貢献するため、積極的な投資を行い、事業の拡大を図っております。



1 | Executive Summary

2 | 2023年3月期第2四半期 決算概況

3 | 2023年3月期通期 業績予想の修正

4 | Topics

2023年3月期第2四半期 決算概要

売上高：5,783百万円 営業利益：1,636百万円 売上高営業利益率：28.3%
(前年同期比41.9%増) (前年同期比97.5%増) (前年同期は23.1%)

2022年3月期第2四半期の事業推移

1. 国際通信事業は、国際通信回線C2Cの提供が進み、入金により収益計上するIRU契約案件の収益計上があり、大幅に増収増益となる。
2. フィリピン通信事業は、成長に向けた設備投資や営業力強化のための営業員の増強などの設備投資により減収減益となる。
3. 国内通信事業は、コールセンター向けサービスが順調に推移し、増収増益となる。
4. メディカル&ヘルスケア事業は、レーシック件数が増加し、増収増益となる。

ビジネス

1. フィリピン国内海底ケーブルの建設開始。
2. 国内通信事業を会社分割により分社化。株式会社アイ・ピー・エス・プロを設立。
3. メディカル&ヘルスケア事業では、予防医療分野に進出するため、人間ドック/健診センターを運営する新会社を設立。

2 | 2022年3月期第2四半期 決算概要

【2023年3月期第2四半期 連結実績】

(単位：百万円)

	第2四半期				第2四半期累計					
	2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	%	2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	%	通期予想 (修正後)	進捗率
売上高	2,115	2,960	845	39.9%	4,076	5,783	1,707	41.9%	12,000	48.2%
営業利益	458	808	350	76.5%	828	1,636	808	97.5%	3,300	49.6%
経常利益	439	913	474	108.0%	820	2,372	1,551	189.2%	3,900	60.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	300	632	332	110.9%	518	1,660	1,141	220.2%	2,700	61.5%

2023年3月期第2四半期 実績分析

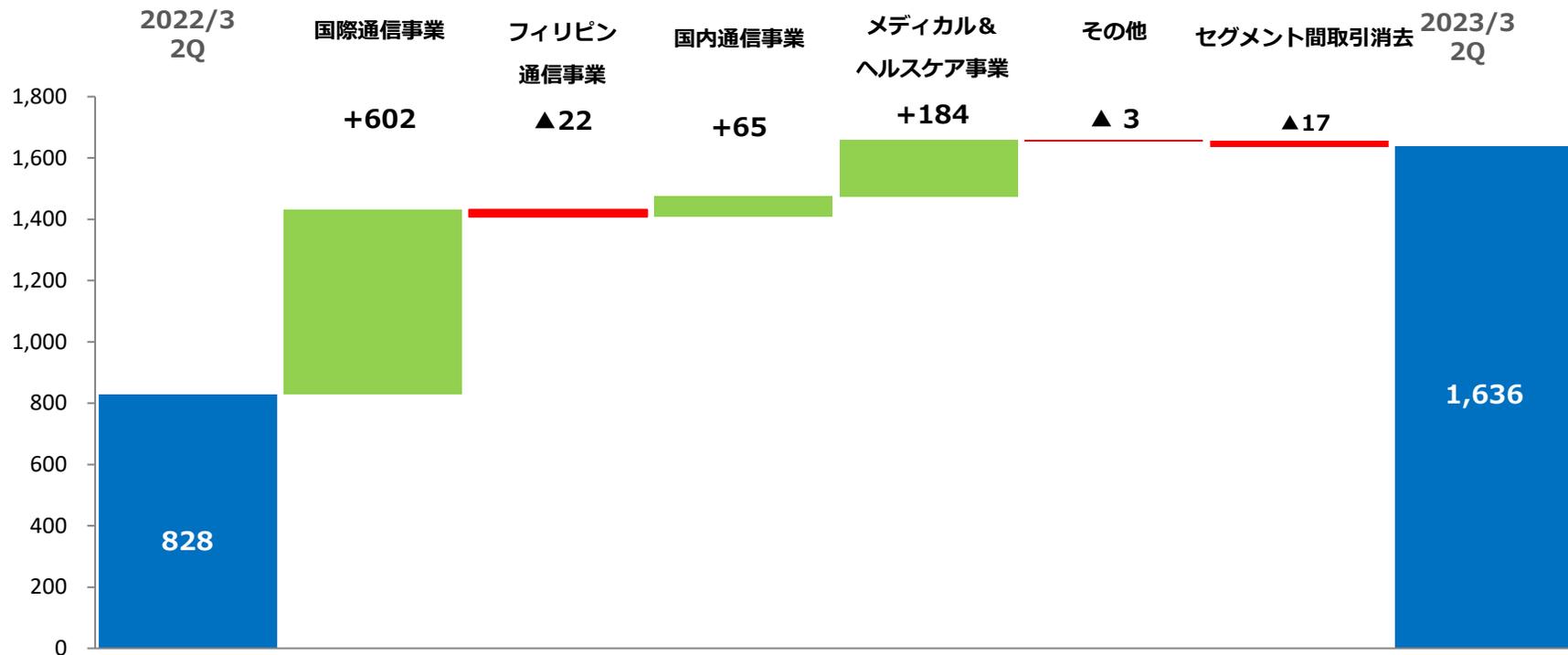
- **売上高**：国際通信事業において、C2C回線のIRU契約案件の収益計上がなされたことから大幅に増加し、メディカル&ヘルスケア事業においてもレーシックの件数が増加し増収となったことから、前年同期比41.9%増加。
- **営業利益**：国際通信事業、メディカル&ヘルスケア事業などの売上増により、前年同期比97.5%増。
- **経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益**：
営業利益の増加に加え、円安となったことに伴い為替差益740百万円を計上したにより、それぞれ前年同期比189.2%、220.2%増加。

(2) 営業利益増減（前年同期比）



国際通信事業、国内通信事業およびメディカル&ヘルスケア事業 が利益拡大に寄与。

(単位：百万円)

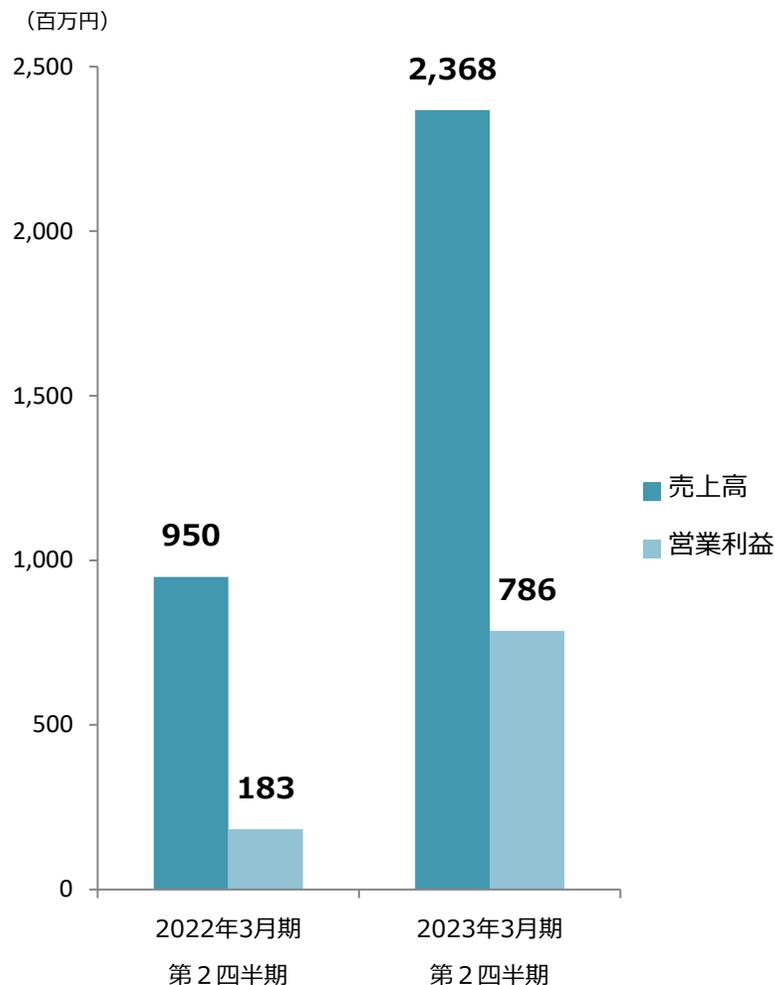


(3) 事業セグメント別経営成績



(単位：百万円)

		2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比	増減率
国際通信事業	売上高	950	2,368	1,417	149.1%
	営業利益	183	786	602	328.0%
フィリピン通信事業	売上高	562	431	▲ 131	-23.4%
	営業利益	131	108	▲ 22	-17.2%
国内通信事業	売上高	2,024	2,117	93	4.6%
	営業利益	365	431	65	18.0%
メディカル & ヘルスケア事業	売上高	522	849	327	62.8%
	営業利益	156	340	184	118.0%
その他	売上高	16	16	0	0.9%
	営業利益	▲ 7	▲ 11	▲ 3	-
セグメント間取引消去	営業利益	-	▲ 17	▲ 17	-
合計	売上高	4,076	5,783	1,707	41.9%
	営業利益	828	1,636	808	97.5%

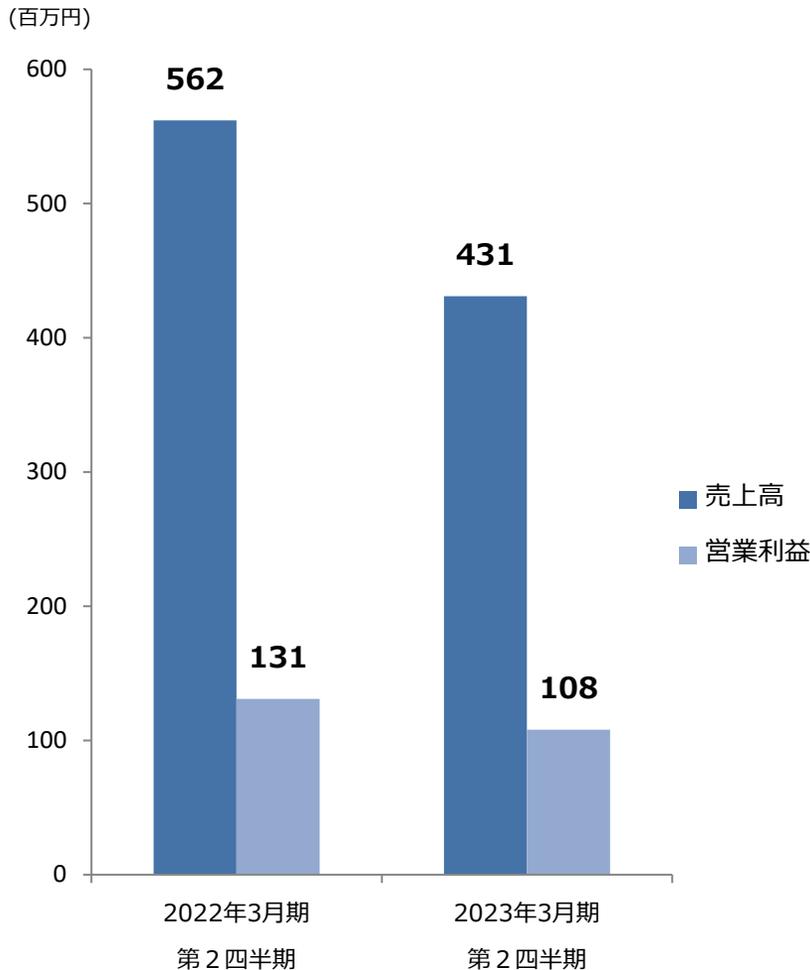


国際通信回線C2Cなど提供による事業拡大

フィリピンのCATV事業者／通信事業者に国際通信回線を積極的に拡販し、ストック型ビジネスの拡大を図る。

2023年3月期第2四半期連結累計期間には、第1四半期に続き、第2四半期にも入金により収益を計上するIRU案件に関する入金があり、大幅に増収増益となる。

引き続き、C2C回線を中心に国際通信回線の拡販を図り、事業の拡大に努める。



成長に向けた先行投資の実施

◆ フィリピン国内の基幹回線網の整備

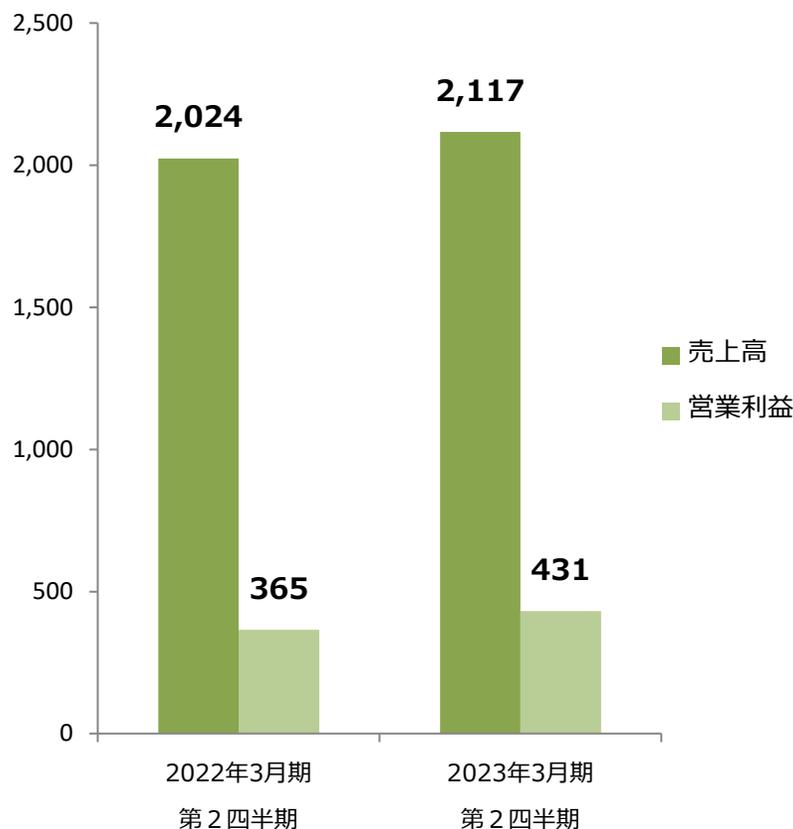
昨年よりフィリピン国内海底ケーブル建設に向けた協議・海洋調査等を実施、本年7月より建設開始。

並行して、フィリピン陸上の回線建設を進め、基幹回線網の整備を実施。

◆ 営業力の強化

マニラ首都圏法人向けインターネット接続サービス顧客獲得に向けた営業力強化のために営業員を増強中。

(百万円)



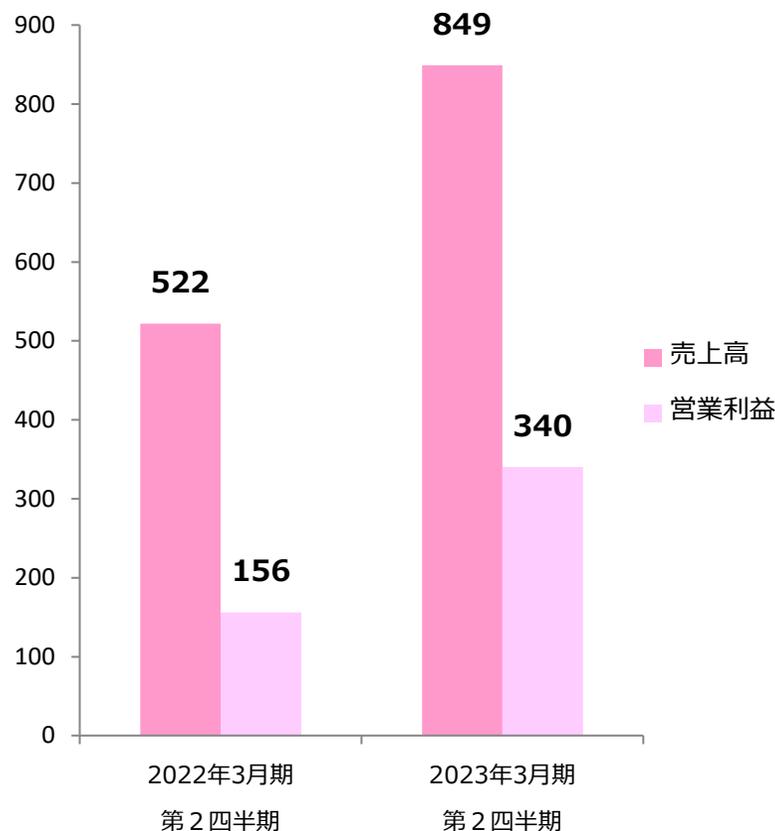
コールセンターソリューション等が好調

コールセンターシステムAmeyoJと秒課金サービスを合わせたコールセンター事業者向けサービスが好調に推移し、新規顧客開拓などが進み、売上、利益が拡大。

株式会社アイ・ピー・エス・プロの設立

本年7月1日付けで、意思決定の迅速化及び機動的な企業運営を強化し、事業執行の確実性とスピード化を図るため、国内通信事業を会社分割により分社化し、株式会社アイ・ピー・エス・プロ (IPSP) を設立。IPSPは

(百万円)

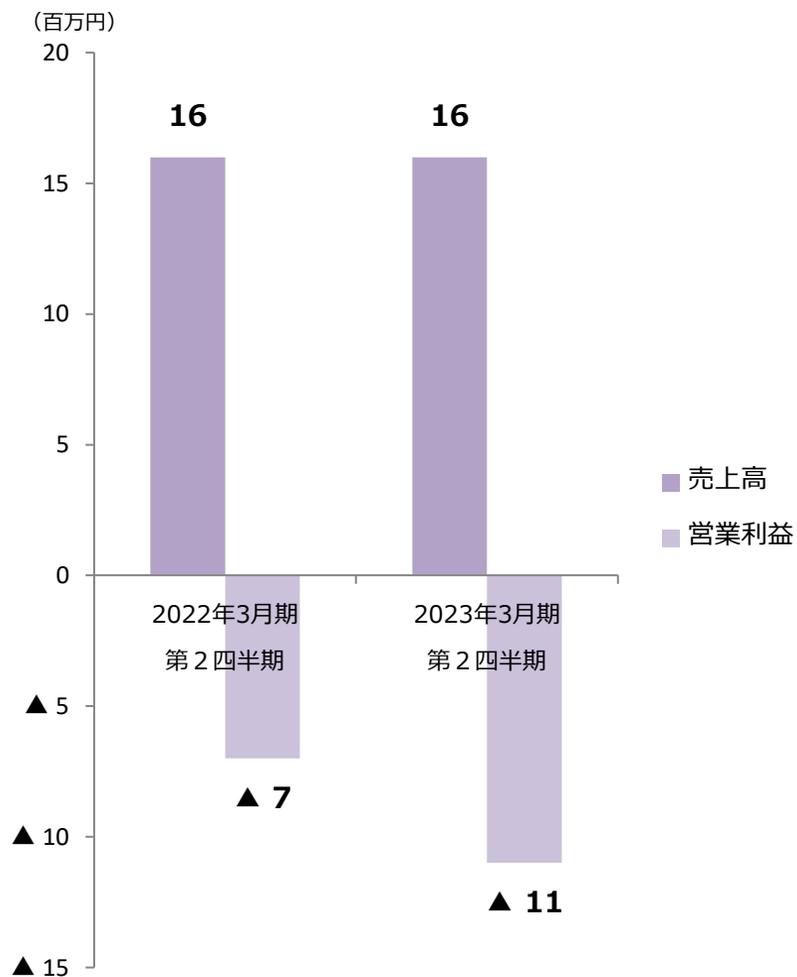


レーシック手術件数が増加し、増収増益

Shinagawa Lasik & Aesthetic Center Corporation (SLACC) が提供しているレーシックは、新型コロナウイルス感染症に関する社会の正常化が進み、ボニファシオグローバルシティの第3院を中心に手術件数が増加し、増収増益。

予防医療分野への進出

日本の高品質な技術を導入した人間ドック／健診センターの開設に向け、運営会社としてShinagawa Healthcare Solutions Corporation (SHSC) をSLACCの子会社として設立。



送金斡旋などのサービスを在留フィリピン人の方に提供。

連結貸借対照表 (サマリー)

(単位：百万円)

資産の部				負債・純資産の部			
	2022年3月期末	2023年3月期 2Q	増減		2022年3月期末	2023年3月期 2Q	増減
流動資産	12,023	14,464	2,440	流動負債	7,865	9,468	1,603
現金及び預金	5,778	7,180	1,401	買掛金	1,032	2,034	1,001
売掛金	2,069	2,659	590	借入金	1,845	3,157	1,312
リース投資資産	3,340	3,542	201	その他	4,986	4,277	▲ 709
その他	834	1,082	247	固定負債	1,418	1,194	▲ 224
				長期借入金	1,203	977	▲ 226
				その他	214	217	2
固定資産	6,397	7,912	1,514	負債合計	9,283	10,663	1,379
有形固定資産	3,776	4,947	1,171	純資産	9,136	11,712	2,575
無形固定資産	1,721	1,936	214	株主資本	7,131	8,527	1,396
投資その他資産	899	1,028	128	累積包括利益	178	919	740
				新株予約権	191	185	▲ 5
				非支配株主持分	1,635	2,079	444
資産合計	18,420	22,376	3,955	負債・純資産合計	18,420	22,376	3,955

3 | 2023年3月期通期 業績予想の修正

2023年3月期通期業績予想の修正



(単位：百万円)

	2022/3月期 通期実績	2023/3月期		
		前回（5月）公表	今回公表	前年度比
売上高	10,728	12,000	12,000	11.9%
営業利益	2,456	2,920	3,300	34.4%
経常利益	2,897	2,820	3,900	34.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,888	1,700	2,700	43.0%

通期予想の修正の概要

- 売上高は、当初計画どおりの120億円を見込む。
- 営業利益は、上期の計画増に加え、下期においても国際通信回線のIRU契約の収益計上などにより概ね当初計画どおりの計上を予定しており、通期で33億円の営業利益を見込む。
- 経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益は、営業利益の増額に加え、外貨建資産・負債を年度末の評価為替レートが第2半期末の水準にて推移したと想定し、為替差益を算定して計画を策定。それぞれ大きく計画を上回る見込みとなる。

2023年3月期通期 セグメント別業績予想の修正



(単位：百万円)

セグメント	2022年3月期実績	2023年3月期予想 (5月公表)	2023年3月期予想		
			(今回修正)	前年比	増減率
売上高	10,728	12,000	12,000	1,271	11.9%
国際通信事業	3,684	4,600	4,900	1,215	33.0%
フィリピン通信事業	1,784	1,620	1,050	▲ 734	-41.2%
国内通信事業	3,988	4,080	4,300	311	7.8%
メディカル&ヘルスケア事業	1,244	1,685	1,720	475	38.2%
その他	26	15	30	3	11.5%
営業利益	2,456	2,920	3,300	844	34.4%
国際通信事業	1,011	1,160	1,570	558	55.2%
フィリピン通信事業	224	315	220	▲ 4	-1.9%
国内通信事業	819	950	950	130	16.0%
メディカル&ヘルスケア事業	419	505	600	180	42.9%
その他	▲ 19	▲ 10	▲ 22	▲ 2	—
セグメント間取引消去	—	—	▲ 17	▲ 17	—
営業利益率	22.9%	24.3%	27.5%	—	—
国際通信事業	27.5%	25.2%	32.0%	—	—
フィリピン通信事業	12.6%	19.4%	21.0%	—	—
国内通信事業	20.5%	23.3%	22.1%	—	—
メディカル&ヘルスケア事業	33.8%	30.0%	34.9%	—	—
その他	—	—	—	—	—

■ 海外通信事業

IRU契約により使用権を取得した国際海底ケーブルC2Cを利用した国際通信回線を、CATV事業者、通信事業者などに対して引き続き提供していく計画。販売形態は、IRU契約案件またはリース契約案件となり、通常リース契約案件は、利用期間にて分割して売上を計上。IRU契約案件では、一括払または分割払にて販売し、それぞれ回収を基準として売上を計上。

今後もフィリピンのCATV事業者、通信事業者に積極的に提供し、事業の拡大を図っていく計画。

下期においても、リース契約案件の増加に加え、IRU契約案件の一括入金による収益計上が計画されている。

■ フィリピン国内通信事業

公共サービス法の改正に伴い、通信事業における外資規制が緩和されることから、フィリピン国内での事業体制の一層の強化を図る。新型コロナウイルス感染症が落ち着き、法人顧客の事業活動も正常化に動き出しており、2020年からの2年間でマニラ首都圏でのネットワークの拡張が図られ、マニラ首都圏全域でのサービス提供体制が整ったことから、営業体制などを強化し、法人顧客の獲得拡大を図る。また、個人向けブロードバンドサービスについても本格的に営業体制を構築し、獲得を強化していく。これにより、さらに強固なストックビジネスの確立を図っていく計画。

フィリピン国内海底ケーブルなどの建設計画に対応し、地方の中核都市などでの営業体制を強化し、顧客の増加を図る。

下期においても、引き続き顧客獲得などのための先行投資を行い、事業拡大を図る。

■ 国内通信事業

コールセンター事業者など向けの、自動架電や顧客管理を統合するシステム（AmeyoJ）と、格安通話料金サービス（秒課金フリーダイヤルサービス）をパッケージにしたトータルソリューションが引き続き好調に推移し、今期も堅調に推移するものと計画。

今後の事業の拡大を図るため、会社分割により株式会社アイ・ピー・エス・プロを設立し、新規分野などへの展開を検討。

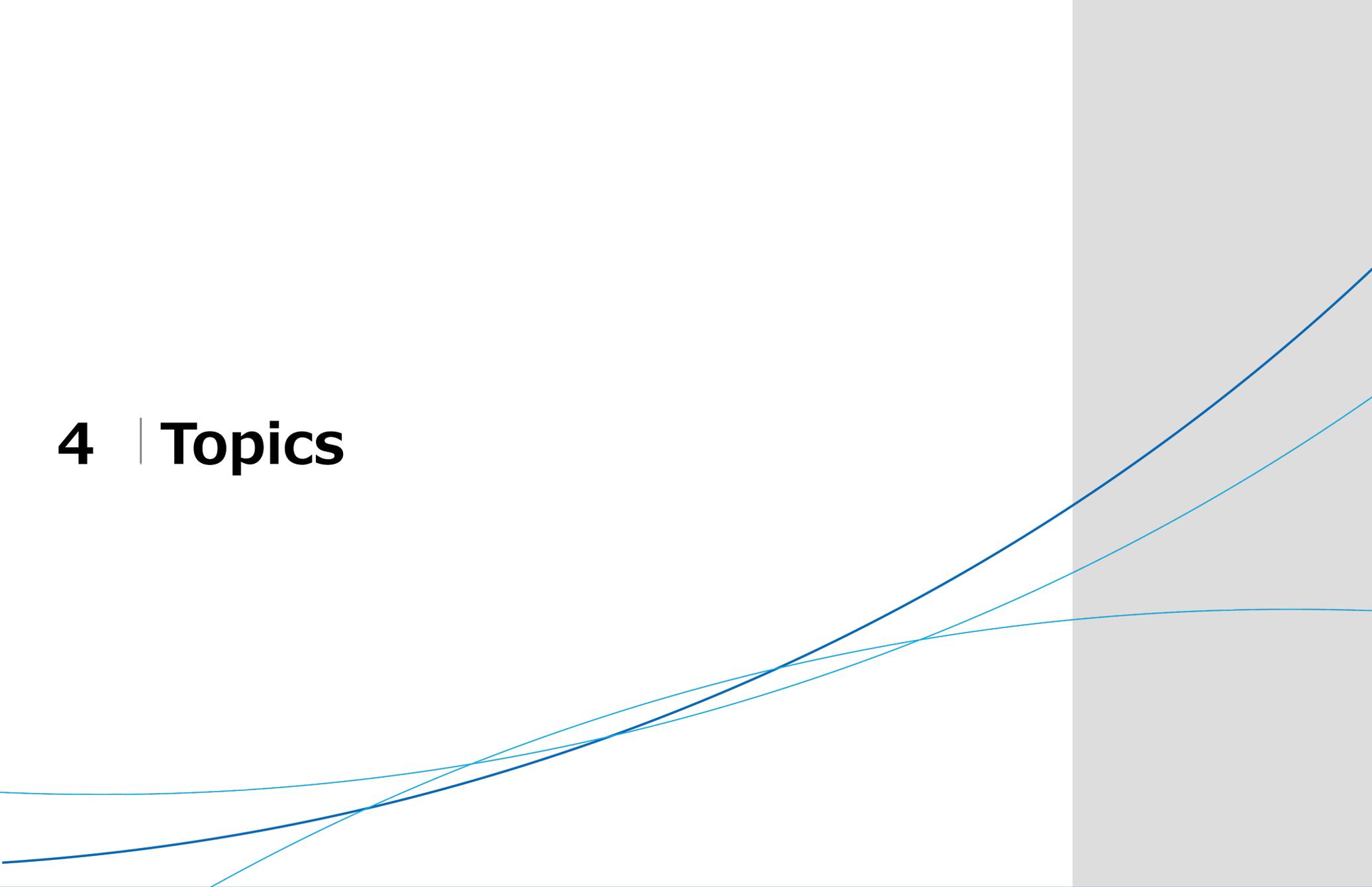
■ 医療・美容事業

新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、安全な運営を行うことにより、レーシック手術などが引き続き好調に推移する計画。

2023年の人間ドック・検診センターの開設に向け、開業準備を着実に実行し、さらなる事業拡大を図る計画。

下期においては、人員の増強やオルティガス院の拡張などレーシック件数の増加に対応した体制整備を進める。

4 | Topics



フィリピンにまつわる通信事業の成長のロードマップ



次の構想「フィリピン通信の開国」

国際海底ケーブルを建設

⇒OTT※やフィリピン外の大手通信事業者と協業し、国内のコンテンツデリバリネットワーク（CDN※）などを提供



2022年以降

国内海底ケーブルを建設

⇒中堅通信事業者や地域CATV向けに提供



2020年～

国際通信回線（C2C等）のIRU取得

⇒通信事業者向けに提供

（キャリアズキャリア取引）

個人向けインターネット接続

法人向けインターネット接続

CATV向け国際回線

①

国際回線増強（キャリアズキャリア取引）

⇒取得済回線の容量拡大、新規回線の取得から受注の継続・拡大へ
⇒通信事業者のパートナーとして実績拡大・信頼向上へ

5G接続サービスが本格稼働すれば更に拡大
アフターコロナ期の拡大を期す

取引先の拡大 + 容量増大や次世代サービス提供を支援して関係を深化

②

面の展開（国内縦断の基幹回線を構築）

⇒効率的な自社回線ストックが主要地域を縦貫し、益々増大するトラフィックを広域に運ぶインフラへ

③

国内基幹回線を最適化

⇒日系企業で、通信自由化の経験則があり、フィリピン国内免許と回線・設備を持つ、当社ならではのサービスを提供

Y1
（現在）

※グラフはイメージ図

※将来の記載については、実施を約束するものではありません

2022年7月、当社子会社のInfiniVAN, Inc. は、フィリピンの通信事業者Eastern Telecommunications Philippines, Inc. およびGlobe Telecom, Inc.と共同でフィリピン国内海底ケーブルシステム（Philippine Domestic Submarine Cable Network。以下「PDSCN」という。）の建設を開始。

- PDSCNは、ルソン島、ビサヤ諸島、ミンダナオ島を結ぶフィリピン国内を縦貫する回線で、その工事区間は 24 区間、ケーブルの長さは約2,500Km、人口カバー率は 96%、来年4月の工事終了予定。



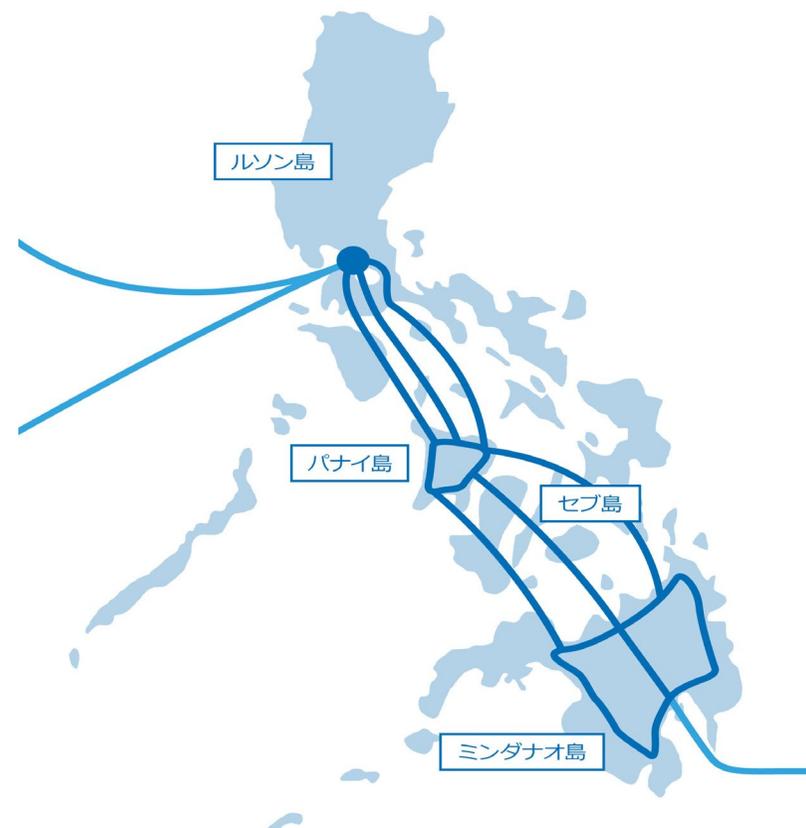
※海底ケーブルの陸揚

項目	内容
体制	InfiniVAN, Inc.とフィリピン国内の大手通信事業者2社（Globe Telecom, Inc.およびEastern Telecommunications Philippines, Inc.）との共同建設
敷設回線	ケーブルの長さ：約2,500km 敷設区間：24 保証期間：25年間 ※海底ケーブルシステムのみ
敷設業者	国際ケーブル・シップ株式会社（KDDI株式会社の子会社）
投資額	総投資額：142百万米ドル（原則3社均等） ※別途、伝送装置やInfiniVAN単独の陸上部分の費用を合計すると、InfiniVANの投資額合計は約63百万米ドル（約85億円） ※自己資金及び金融機関からの借りで充当する予定

PDSCNの建設は、順調に進捗しており、セブ島などでの陸揚げも計画通りの進捗しております。

また、PDSCNと並行して、フィリピン国内基幹回線の建設も進行中。

- 2023年4月の完成後、PDSCNを下記の顧客に提供を想定
 - ✓ インターネット料金が高止まりしている地方ユーザーを抱える各地のCATV事業者やインターネット接続事業者
 - ✓ より割安な物価や人件費を求めて地方進出を進めるBPO企業や法人
 - ✓ 高品質な自社コンテンツを地方に行き渡らせたいOTT



※イラスト上の回線のルートは、実際のものとは異なります。

国内通信事業を会社分割により分社化し、2022年7月に株式会社アイ・ピー・エス・プロ（IPSP）を設立。

IPSPでは、日本をアジアのデータ交換のハブとするために挑戦してまいります。

アジア地域においては、日本は陸揚局と中継通信回線の料金が大きく・利用しにくいという課題を抱えていたため、残念ながら香港とシンガポールがデータ交換のハブになっていた。一方、最近の米中摩擦などにより香港が避けられる傾向になっていて、シンガポール一択の状況となっている。日本は、北米との距離、多数の既存回線の接続という潜在的な優位性があるものの、前述の課題を抱えており、そのポテンシャルを生かし切れていない。そのため、世界各地にネットワークを拡大しているハイパースケールオペレーターからも不満の声を聴く。

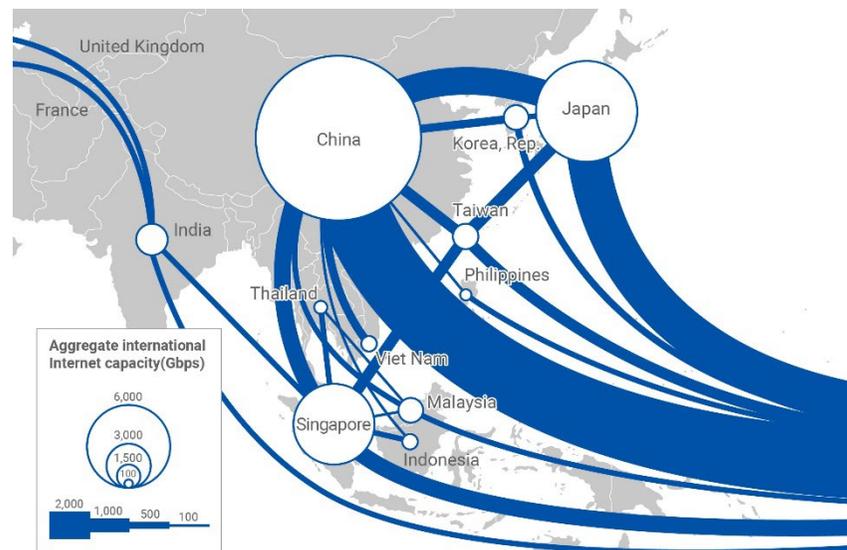
このような環境に事業機会を見出し、IPSPは、日本をアジアのデータ交換のハブとすべく下記の取組みを検討してまいります。

① キャリアニュートラルなIX（インターネット接続点）／海底ケーブル陸揚局の提供

- ▶ 特定の通信事業者に依存や限定をしない
- ▶ 中立的で使い勝手が良い

② 陸揚局と都心部のデータセンター等を結ぶバックホール（中継通信回線）の提供

- ▶ 他の事業者と共同で建設や利用



通信トラフィックのイメージ

メディカル&ヘルスケア事業では、フィリピンの医療インフラの改善を図る事業展開を実施。

<レーシック>

Shinagawa Lasik & Aesthetic Center Corporation (SLACC) の運営する3 医院でレーシック、美容などを提供。

- ボニファシオグローバルシティ院（BGC院）を中心に件数が増加し、増収増益を達成。



レーシックの件数増加に対応するため、下期にはオルティガス院の拡張工事を実施するなど体制強化を図る。



オルティガス院

<予防医療分野への進出>

2022年6月に日本基準の人間ドック／健診センターを運営する新会社Shinagawa Healthcare Solutions Corporation（SHSC）をSLACCの子会社として設立。

施設名はSHINAGAWA DIAGNOSTIC & PREVENTIVE CAREとする予定。

- フィリピン初の予防医学を主に専門とした医療施設。
- 検査画像は日本とフィリピンの専門医による二重読影により早期発見の可能性を高める。

フィリピンでは予防医療の普及はこれから。法人取引先や保険会社への積極販売を図っていく予定。

Philipsとの提携

ヘルステックの分野でグローバルリーダーであるPhilipsと提携いたしました。SDPCには、フィリピンで初めて導入されるヘリウムフリー技術が搭載されたPhilips のMRIを導入いたします。

この提携によりPhilipsの高性能な機器を通じて、「Health and Well-being for all」というSHSCのミッションを加速してまいります。



会社名
(英文社名)

株式会社アイ・ピー・エス
IPS, Inc.

設 立

1991年10月

本社所在地

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル8階

事業内容

国際通信事業：フィリピンのCATV事業者等に国際通信回線を提供

フィリピン通信事業：フィリピン国内での法人向けISPの提供、フィリピン国内通信回線の敷設・提供

国内通信事業：日本国内での通信サービスの提供

メディカル&ヘルスケア事業：フィリピンでのレーシック手術などの提供

グループ企業

主な連結子会社

株式会社アイ・ピー・エス・プロ（2022年7月1日会社分割により設立）

KEYSQUARE INC.

InfiniVAN, Inc.

ISMO Pte. Ltd.

Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation

Shinagawa Healthcare Solutions Corporation（2022年6月設立）

➤ C2C

フィリピンとシンガポール・香港を結ぶ海底ケーブル (City-to-City Cable System)。

➤ キャリアズキャリア

通信回線の通信事業者向けの卸売業者。

➤ IRU

Indefeasible Right of Use。関係当事者の合意がない限り、破棄したり終了させることができない永続的な回線や設備の使用権。

➤ AmeyoJ

当社が日本国内の販売代理権を持つ、インドのDrishti-soft Solutions Pvt. Ltd.が開発したコールセンターシステム。

➤ 秒課金サービス

大手電気通信事業者が提供している着信課金サービス(フリーダイヤル)を大量に仕入れて、コールセンター事業者向けに秒単位で販売するサービス。

➤ CDN

Content Delivery Network。Web サイト上のコンテンツを迅速にエンドユーザーに届けるための仕組み。

➤ OTT

Over The Top。インターネット上の動画配信・音声通話・ソーシャルメディアなどのサービスや提供事業者の総称。

➤ ARPU

Average Revenue Per User (アープ) 。1ユーザーあたりの平均売上を示す指標。

- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

《IRに関するお問い合わせ先》

株式会社 アイ・ピー・エス
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1
東劇ビル8階

TEL: 03-3549-7719 FAX: 03-3545-7331